

# タイ研修旅行

5月22日～27日

2年 旅行委員長

磯 見 祐 希

旅行委員として先生と共に数ヶ月間準備し、すごく楽しみにしてきた4泊6日のタイ研修旅行。予報では全日雨だったにも関わらず、天は僕たちの気持ちに添えてくれたのか、雨が降ったのは数時間だけでほとんどのプログラムを晴天の中で安全に行うことができ、ほんとうに素晴らしい充実した研修旅行でした。その中でも特に二日目と三日目のことが心に残っています。

二日目の午前中はアユタヤの遺跡や仏像を数カ所観光しました。壮大で芸



術的な遺跡が沢山残っていました。午後には水上マーケットと日本人村を訪れました。水上マーケットは日本にはない新しい雰囲気であり、独特の光景や匂いを感じました。また、象乗りを体験することができました。象に乗って遺跡の周りを巡り、初体験のまた違った景色を見ることができました。日本人村では、2本のビデオと展示物を鑑賞しました。タイと日本の交流の始まりやその深さ、日本人村が形成され消滅した理由や原因・歴史的背景などを知ることができ、タイという国が近い親しい国であることを知ることができました。この日の夕食はタイの舞踏ショーを鑑賞しながらの食事でした。タイ独特のきらびやかな衣装や飾り付け、踊りや物語、その美しさや楽しさには目も心も惹きつけられました。日本にはない世界観を味わうことができました。

三日目はフィールドワークや課題研究のためのプログラムでした。先ず初めにスラム街を訪れ、そこで長年支援活動を行なっている財団を尋ねました。スラムの歴史、スラム問題の要因や現状、それに対する政府の対応や必要な支援などのお話を聞きました。また、支援を始めたきっかけやその内容の話も伺いました。その後には、実際にスラム街の中を歩き、幼稚園を訪れました。スラム街で見た光景は、小さな家がひしめき合い、道は狭く、ゴミの匂いが漂っていて、日本にはあり得ない光景であり、驚きを隠せませんでした。しかしそんな中でも、幼稚園にい



る子供たちは笑顔が輝いていて、自分たちが用意した遊びもすごく楽しんでくれました。先生たちは、お金がない子供たちもしっかり教育を施し、明るい未来を手にしてもらうことを目指している。そう、今のスラム街というのは悲惨なものだけではなく前に進んでいる途中だということ、子供たちがその光なのだということに気づきました。そのあとは、タイの名門校・トリナムウドムスクサ高校を訪れ、交流や課題研究をしました。日本の遊びやタイの遊びをそれぞれ教えあい、交流しました。課題研究では班それぞれでいのちと環境問題についてブレインストーミングをしました。お互い母国語が英語ではなく、コミュニケーションをとり議論を深めることは難しかったですが、易しい日本語とカタコトの英語を使い頑張りました。日本とタイのそれぞれ特有の問題点や共通した問題点を見つけ

ることができ、違う角度からの新しい視点で物事を見ることができました。その後は交流した高校生たちがサイアムスクエアというショッピング街を案内してくれ、現地の美味しいスイーツを食べ、たくさん買い物しました。限られた時間でしたがすごく楽しく充実した時間になりました。現地の高校生とも仲が深まりました。今でもSNSでお互いの日常や学校生活を知ることができており、遠い国に強い繋がりが持てたことがとても嬉しいのです。この日の夜は旅行委員で企画し自分自身一番楽しみにしていた「つどい」がありました。クラス対抗で三つのゲームを競い合う内容でした。正直、本当にみんなが楽しんでくれるのか心配でした。しかし、みんな汗をかきながらとても楽しんでくれ、今までにない大盛り上がりを見せ、旅行後には、つどいの時間が一番楽しかったという感想もいただき、旅行委員長として、一生懸命考えて準備してよかったなという嬉しい思いと、全力で協力してくれた委員会に対する感謝の思いで溢れました。

4泊6日の全行程を大きな病気や怪我なく安全に過ごせました。それは何より現地のガイドや旅行会社の方々、そして先生方のおかげだと思えます。そして生徒一人一人がこの研修旅行で新しいことを体験し、普段得られないものを得て、楽しくかけがえのない時間をしたいという思いがあったからこそ、大変素晴らしい輝いた価値のある研修旅行になったのだと思います。